別紙様式４

教科等研究会（中学校特別活動部会）
令和５年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

互いの考えを出し合い、尊重し合いながら合意形成する特別活動
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

２　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	内容
6月12日	９名	甲佐町立甲佐中学校	7月3日（中止）	甲佐町立甲佐中学校	上益城郡生徒会交流会打合せ	９月２９日	益城町立益城中学校	山本美和教諭	１月２９日	甲佐町立甲佐中学校	講話取組共有

３　研究の概要

（１）研究の内容

①主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能とする。

特別活動の目標に掲げられている「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」よりより集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話合い活動で合意形成された目標を基にして、一人一人が役割を分担する協働活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

②サブテーマ

ア　人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性、考え方、関心や意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切である。

イ　社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

ウ　自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

（２）成果と課題（○：成果　●：課題）

○生徒会交流会は、学校のリーダー同士で情報交換の場、生徒の視野を広げるきっかけ、参加者の自己肯定感を高める等、非常に教育効果が高い取組となっている。

○熊本県立教育センターの指導主事の先生に講話をしてもらったことによって、年間を通して行っているさまざまな教育活動が特別活動とつながりのあることを知ることができた。今後は年間計画の前後のつながりを意識しながら取り組んでいきたい。

●学級活動で話し合いをする際に、多くの生徒が合意を形成するために活動をすることができるように、９年間を通して共通して取り組むことが必要であると感じた。

●生徒会交流会が夏休みの実施１回のみであったため、生徒からもっと交流して互いの悩みを解決できるような時間が欲しいと要望があった。来年度は生徒の「やりたい」を少しでも実行することができるように部会で検討したい。

●今年は小学校と中学校の授業を互いに見合う機会を設けることができなかったため、今年初めて中学校特別活動部会に参加する先生たちが知ることができなかった。小学校と一緒に研究を進めていく必要性を感じた。

●熊本県立教育センターの指導主事の先生の講話を聞いて、他教科とも連携をして特別活動を充実させていくと、さらに生徒が主体的に課題を解決していくために取り組むようになると感じた。

４　実践事例

（１）生徒会交流会（益城町交流情報センターミナテラス）

１、開会行事【御船中学校】
２、実践報告【木山中学校】（各学校の参加生徒より実践発表・質疑感想発表１０分）
３、仲間づくり活動【益城中学校】
４、班別討議【甲佐中学校】
５、閉会行事【矢部中学校】、感想発表【清和中学校、蘇陽中学校、嘉島中学校】

（２）研究授業の概要

<table>
<tr><td>単元の目標</td><td>（（１）合唱コンクールにおける学級の課題点を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
（２）合唱コンクールにむけた学級の課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
（３）協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。</td></tr>
<tr><td>単元終了時の生徒の姿</td><td>自分の役割を考え、学級会の話し合いで決まったことをもとに、みんなで協力し、進んで活動に取り組もうとしている生徒</td></tr>
<tr><td>単元を通した学習課題</td><td>合唱コンクールを成功させるために、学級の課題点を的確に把握し、どのような取り組みをしたらよいか、具体的な対策を考える。</td></tr>
<tr><td>働かせる見方・考え方</td><td>よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、主体的に問題を解決しようとすること。</td></tr>
<tr><td>生徒の実態</td><td>■資質・能力に関する実態
<table>
<tr><th>調査内容</th><th>そう思う</th><th>そう思わない</th></tr>
<tr><td>自信を持って、自分の意見を言うことができますか。</td><td>２６名
（６８％）</td><td>１２名
（３２％）</td></tr>
<tr><td>学級の一員として役割を十分果たしていると思いますか。</td><td>２８名
（７４％）</td><td>１０名
（２６％）</td></tr>
<tr><td>自分は周りから認められていると思いますか。</td><td>２８名
（７４％）</td><td>１０名
（２６％）</td></tr>
</table>
■本題材の学習に関する意識の状況
<table>
<tr><th>調査内容</th><th>とてもしている</th><th>していない</th></tr>
<tr><td>学級会で決めた学級目標を意識して生活していますか。</td><td>３３名
（８７％）</td><td>５名
（１３％）</td></tr>
<tr><td>これまでの学校行事に積極的に参加しましたか。</td><td>３５名
（９２％）</td><td>３名
（８％）</td></tr>
<tr><td>合唱をすることは好きですか。</td><td>３１名
（８２％）</td><td>７名
（１８％）</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

	■考察 （資質・能力に関して） 　自信を持って自分の意見を言うことができない生徒が３２％と、自分の考えを伝えることが苦手な生徒が多い状況にある。また、自分の役割を自覚し、役割を果たしていると感じている生徒は７４％であり、責任感を持ち、役割を意識して行動できている生徒が多い。一方、「自分は周りから認められている」という質問には２６％の生徒が「そう思わない」と回答しており、自己肯定感の低い生徒も多い。 （学びに関して） 　今までの学校行事には積極的に取り組むことができ、今回の合唱コンクールにおいても良い結果を残したいと考えている生徒が多い。しかし、一方で合唱が苦手で不安を持っている生徒も１８％いる。また、話合い活動で決めた事柄をしっかり意識して生活している生徒は８７％と、話合いで決めたことを守ろうとする意識は高い。
指導上の留意点	**生徒の主体的な学びへの転換** ～サンタの学習過程の実践を通して～ 　サンタの学習指導過程とは、益城町で主体的な学びへの転換を目指して、小中連携して取り組んでいる授業改革の一つである。サンタとは児童生徒の主体的な学びへの転換を図るため、小中連携による「楽しく、ためになり、ためしてみたくなる（サンタ）授業」のことである。指導に当たっては、サンタの学習指導過程の授業実践上のポイント１０の視点を念頭に置き取り組む。 ○　全員がクラスの一員として主体的に話し合いに参加できるように、事前に議題について伝え、どのような合唱コンクールの取組にしていきたいかを考えさせる。 ○　議長団を中心に事前準備を進める。事前準備から当日までの流れを把握させて計画を立案させ、生徒が主体となって運営していると実感させる。 ○　協同的・参加的・体験的な学習の推進のために，班での話合いでは，互いに意見を出し合う場を確保し，互いの意見を認め合う雰囲気づくりをする。また，役割分担をしながら班での意見をまとめ，発表し，学びの共有化を図っていく。
授業者自評	特活は今年初めて研究授業をした。学級会をする中で、意見を絞る時は、「６組の思い出に残る」ということを約束にして議長団が決めるようにした。今回は具体的な取り組みを決めたかったので、一つに取り組む内容を決めるようにした。これも何にするかは議長団が判断する。「フロアの話し合いの仕方」「時間配分」「事前準備」「生徒たちの意見の出し方」など取り組んでいることがあったら共有してほしい。
協議より	・学級会の開閉会を生徒が行うことができていて、継続的に学級会を行うことができていることが伝わってきた。 ・机間巡視を議長団が行っていて、どんな意見を先に把握していたので、話し合いをスムーズに進めることができたと感じる。 ・質問等に対する具体的な回答を議長団が行っていたので、生徒自身も話し合いに向けて検討を重ねてきたことがわかった。 ・学級会で頑張りを認められる生徒は議長団が多い。合意形成を図るためには、議長団だけではなく、他の発言も大切である。そういう点に目を向けられるような視点を最初に生徒に与えておくとよい。また、学級で頑張っていたと伝える際には書いたものを読むのではなく、伝えることを大切にした方が気持ちを相手に伝えることができる。
まとめ 清和中学校 山本校長先生	・生徒同士や先生と生徒の関係がよく、話し合いの中で意見を伝えやすい雰囲気があった。 ・議長団が司会を行い、参加していた学級の生徒が意見を出し合ったことから取組が決まるということが大切で、今回はそれができていた。だから、生徒たちは決まった取組を、努力して実践したり、実践できるように意識したりすると感じた。 ・議長団とフロアの熱意が一緒になるために、最後に「マイルール」などを決めるとさらに全員の気持ちをそろえることができると感じた。また、「マイルール」でどういうことが「できた」のかを具体的にすることで、自己肯定感を高めたり、クラスの一員としての存在意義を感じたりすることができる。 ・これからも定期的に帰りの会等で振り返りを行っていくこと必要。

（3）　展開案

過程	時間	学習活動 （◇予想される生徒の発言）	指導上の留意事項 （学習活動の目的・意図，内容，方法等）
導入	5分	1　開会 2　議長団の紹介 3　議題の確認 4　提案理由の説明	○学級会を開き、話し合う理由を「提案理由の説明」の中で全体に説明する。 ○話合いの流れとゴールを確認する。
展開	35分	【議題】３－６が目指す合唱コンクールにするために、これまでの取組の課題と成果を振り返り、みんなで実践できる具体的な約束事を決めよう。　サンタ② 【話合いの柱】合唱コンクールの取組の成果と課題を出し合い、課題を改善するための具体的な取組や約束事を決めよう。　サンタ⑦　サンタ⑧ 5　話合い ・意見を出し合う（全体） ◇昼練習に集まる時間が遅いという課題に関しては、早く食べ終われるように、給食の準備を早く終わらせ、食べる時間を確保することが大事だと思います。 ・意見を比べ合う ◇給食準備を早く終わらせるという意見に付け加えて、食べた後の片付けの動きも早くした方がいいと思います。 ◇給食準備を早く終わらせるという意見には賛成ですが、それ以外にも集まったあとに準備をする時間がもったいないので、給食当番以外で歌詞譜を張るようにした方がいいと思います。 ・まとめる（決める） ◇給食当番の準備、片付けを早くすることについては賛成意見が多いので、決定でいいですか。 【期待される学びの姿】 互いの意見の良さを生かしながら、折り合いをつけられないか意欲的に話し合っている。	○事前に取組を振り返るアンケートをとり、取組の成果と課題を把握させる。 ○「発表のキーワード」を用いながら、相手に伝わるように意見を述べるよう助言させる。 ○手を挙げない時には、セルフトークで意見を言う準備をさせる。 ○意見が出ないときは、班を作って話合いをさせる。 ○出された意見に対する質問や賛成意見、反対意見を聞きながら絞り込んでいく。 ○約束事と取組事項を絞り込む集団決定に向けて、班で相談したりする時間を設ける。 ○意見がまとまらないときは、一度提案理由に戻る。 【具体の評価規準】（態） ○合唱コンクールの取組をよりよくするための話合いに主体的に参加し、互いの意見の良さを評価しながら練り上げようとしている。（方法：観察） 【達していない生徒への手立て】 ○「発表の流れ」を見ながら、意見を整理して発表できるように議長に助言させる。 ○意見が出ないときには、班で話し合う時間を設ける。
終末	10分	6　決まったことの確認 【まとめ】クラスで決めた具体的な約束事と取組　『　　』 7　振り返り 8　担任の話 9　終わりの言葉	○決めたことに対して、自分はどのように取り組んでいくかを考えさせる。 ○話合いの進め方や合意形成の過程を評価する話をする。

※サンタの学習指導過程　授業実践のポイント１０から

サンタ②「導入」練習開始が翌日に迫る中で、どのような合唱の取組にしたいかをクラス全体で考えることの意義や話合いの目的を理解させることで、活動への意欲を高める。

サンタ⑦「発表」自分や班の意見を「発表のキーワード」を使って、「読む発表」から「伝える発表」にすることを意識させる。

サンタ⑧「練り上げ」各班の意見を一つの意見にまとめる際に、お互いの意見を大切にしながら合意形成を行い、よりよい意見に練り上げていく。